

NPO 法人市川にオオムラサキを生息させる会

ごあいさつ

2020年1月、中国武漢で原因不明の肺炎が発生し、その後またたく間に世界中に感染が広がっていった新型コロナウイルスは、日本全域にも猛威をふるい、多くの感染者が出てしまいました。

パンデミックから始まり、クラスター、オーバーシュート、ロックダウン等聞きなれない言葉が飛び交い、都内では不要不急の外出自粛要請から、土日でも繁華街での人影が少なくなったり、著名人が亡くなったりする等前例のない事態に、先行きの見えない不安を感じられている方も多いか思います。

市川市の小中ICTを活用した教育で他県に比して大変進んでいることをご存じですか。コロナウイルスの発生している時期だけに、知っておくべきです。市川市は、タブレット貸出等の環境整備費用として、計上されました。市川市議会で活躍されている、広報担当の石原みさ子氏に状況報告を、特別に、お願いしました。

市川市は、4月27日、公立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校など合計61校の臨時休校を5月連休明けまで予定していましたが、5月末までに延期されました。学校の臨時休校は、2月28日から開始されたので、3カ月目に入ります。

自宅待機となった子供達は、家庭でどのような学習をしているのでしょうか。市川市教育委員会は、1年以上前から、ITC等を活用した新しいドリル学習ソフトの運用を目指してきました。そして、今年の2月

実は、去る2月29日には、さわやか県民クラブ主催の「教育支援 NPO・ボランティア等実践研究交流会」において、県内の他の NPO 団体とともに、本会の取り組みを紹介させていただく予定でございましたが、この感染症の影響で中止になってしまいました。大変残念な事でしたが、現在別な発表の機会を検討中ですので、決まりましたら、あらためてご紹介させていただきます。

さて、このような状況の中ですが、今年も本会の活動が本格的に開始する時期になってまいりました。

今年も、例年通りオオムラサキの幼虫と

より、各学校や家庭のパソコン等で取り組めるようになりました。5教科対応のソフトは、小学校向けジャストスマイルドリル、中学校向けドリルパークの2種類です。児童生徒は、それぞれにIDを持っており、自宅のパソコンで家庭学習が可能です。学校は、プリント等の課題も提供していますが、子ども達の家庭学習環境にもう一つの選択肢が整えられたことは素晴らしいことです。

この学習ソフトは、子ども達の進行状況を担任の先生が確認できるため、不登校児童生徒の学習機会の確保としても、大いに期待できます。文部科学省は、昨年10月に通達で不登校児童生徒の学習支援のために、ITC等を活用するよう求めていました。市議会は、その指摘を踏まえて、要件を満たした不登校児童生徒を、出席扱いには出来ないものの学習に参加ことを検討していました。

エノキの苗木を近隣小学校ならびに幼稚園に配布し、飼育支援を行ってまいります。特に下記の点に力を入れたいと考えています。

①オオムラサキの学習支援(小学校)

小学校の理科の授業の中で、モンシロチョウとの比較やオオムラサキの生態等についての指導を行う予定です。

②オオムラサキの人工交尾技術の確立

市川市自然博物館等との連携により、人工交尾—産卵—成長—羽化のサイクルを目指します。

理事長 川添 茂

どの学校長も同じ判断を出せるためのガイドライン作りに1年以上かけて準備しました。そして、本年4月から実施されることとなりました。

この画期的な取り組みは、勉強がわからないで学校に行き難しという傾向を改善させる可能性を持っており、なおかつ受験生にとっては評価の材料が増えるため、進路の考えかたが広がったというメリットがあります。

いつもの授業を自宅でタブレットで受けられる、そんな時代に、私たちは向かっているのです！

応報 石原 みさ子